

## 子ども国体

—新時代のスポーツフェスティバル—

順天堂大学 発育発達学・測定評価学研究室

○丸山 大成 馬庭 佳奈子 広崎 力 大久保 侑央

椎野 比菜 茂木 奎太 小林 哲平 島田 純

### 1 緒言

文部科学省が昭和 39 年から行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、調査開始以降昭和 50 年ごろにかけては、向上傾向にあった。しかし、昭和 50 年ごろから昭和 60 年ごろまでは停滞傾向にあり、昭和 60 年ごろから現在まで 15 年以上にわたり低下傾向が続いている。

昭和 60 年以降の調査結果について、具体的に見ると、持久走(男子 1,500m、女子 1,000m)では、13 歳女子は、昭和 60 年を最高に平成 12 年では 25 秒以上遅くなっている。平成 12 年の結果を親の世代である 30 年前の昭和 45 年調査と比較すると、ほとんどのテスト項目について、子どもの世代が親の世代を下回っている(文部科学省, online1)。

また、部活動などで運動を日常的に行っている者の体力・運動能力は、運動を行っていない者を上回っている。さらに、現代は体力・運動能力が低下し、子どもの間で能力格差が広がっている。このことは部活動などで、運動をよくする子どもとほとんどしない子どもとの二極化傾向が指摘されていることと無縁ではないと思われる。

本研究は子どもの運動不足、体力の低下、運動機会の二極化を解消するために「くする・見る・支える」の観点から政策を提言していくことを目的としている。

### 2 研究の方法・結果

今日の子どもの現状や周りの環境、スポーツへの考え方を把握し、子どもとスポーツの関係から問題点を見つけるために、笹川スポーツ財団や文部科学省が行った先行研究をもとに研究を行った。

現代の子どもたちはスポーツをする機会が減少している。まず、外遊びを行うことが大幅に減少している。理由として、都市化によって外遊びをする場所である空き地や生活道路がなくなっている。また、教員や指導者自身の外遊び等の経験が浅く、スポーツの楽しさを教えることができないため、スポーツ本来の運動指導をできないのが現状である(文部科学省, online2)。

次に子どもがスポーツをすることで、親への負担が多いことが理由にある。スポーツにかかる費用、送迎や人間関係などの負担が多く、家庭の事情に大きく反映されていることがわかる(笹川スポーツ財団, 2017)。

子どもがスポーツを始めるきっかけや動機付けとして親子で行なうことが有効なため、親を子どものスポーツの場に導き出すことが必要である。また、体を動かすことが幼稚園

などで一過性のものにならないよう、子どもの体力向上について保護者の意識を高め、家庭と連携して、家庭において積極的に外遊びの機会をつくるなど体を動かす習慣をつけるようにすることも重要である（文部科学省,online5）。

### 3 提言・まとめ

#### (1) 提言

##### (ア) 子ども国体を設ける

スポーツは自分自身が運動をするだけではなく、する・見る・支える、この観点でスポーツに携わることができる。その機会を設けるために考えたのが今回の提言である。「する」は実際に競技を行い、記録を登録し、ランキングにする。ランキングの上位者に子ども国体の出場権を与え、順位によって景品・賞状を授与する。また、会場に来た人を全対象とし、イベント競技として、大縄跳びや大玉転がしを行う。さらに、「見る」・「支える」の観点では、行ったものに応じてポイントを加算し一定のポイントと景品を交換することができる。景品は提携している企業の商品券やショッピングポイントと交換できる。

子ども国体の参加で親子のコミュニケーションの場が提供できる。保護者を始めとした国民全体が、子どもの体力低下の問題、外遊びやスポーツの重要性、良さや素晴らしさの理解を促す。家族、学校、地域社会において、生活習慣の改善を含めた子どもの体力の向上を認識することができる。

##### (イ) インターネットとの連携

Yahoo や Google などフォーマットを作り、自己申告制での登録

##### (ウ) ランキング形式で競い合う

あらかじめ種目の記録に応じて点数を決めておく。その点数の総合点でランキング順にし、各県と全国での順位を常に確認できるように表示する。最終的にランキング上位者には順位に応じた景品を贈呈する。

#### ○する

(表1)・(表2)は種目別基準を示したものである。種目としては、「走る・跳ぶ・投げる」の三大要素を取り入れた種目を行う。園児と小学生で種目を変えることによって各々の年齢に合う競技で競争心かつ楽しさを覚えることが期待される。

表1 種目別基準 (小学生)

50m走	(秒)
縄跳び	(回/3分)
ソフトボール投げ	(m)

表2 種目別基準 (幼稚園児)

25m走	(秒)
縄跳び	(回/分)
ソフトテニスボール投げ	(m)

#### ○見る・支える

(表3)は観戦視聴方別ポイントを示したものである。獲得ポイントは直接観戦、間接観戦などによって異なる。スポーツの会場で雰囲気を楽しむ、観戦することで興味

と憧れを持つことや、スポーツへの興味関心が高まることが期待される。

(表4)はボランティア活動別ポイントを示したものである。ポイントはスポーツ大会でのボランティア活動に参加することで付与される。実際に足を運び、サポートすることによって、スポーツの現場と直接携わることができる。スポーツが多くの人で支えられていることを学ぶ機会となることが期待できる。

表3 観戦視聴方法別ポイント

プロ	20p
大学	15p
高校	10p
テレビ	5p

表4 ボランティア活動別ポイント

ゴミ拾い	10p
給水	10p
案内	10p

(表5)はスポーツをする・見る・支える、この3観点で行うときのメリットとデメリットを示したものである。デメリットの解決方法としては、公共施設などを利用する。無料や近場のイベントに参加する。報酬以上の価値や、経験を得られるなどのことが挙げられる。

表5 運動の3観点のメリットとデメリット

	する	見る	支える
メリット	運動能力・体力の向上。	興味関心が高まる。	スポーツを支える経験ができる。
デメリット	種目によって行う場所が限られる。	コストがかかる。 長い時間を使う。	報酬がもらえない場合がある。

## (2)期待される効果

(図1)は、子ども国体を行うことで期待される効果を示したものである。以下はそれぞれについて詳しく説明したものである。

### (ア)心の発達

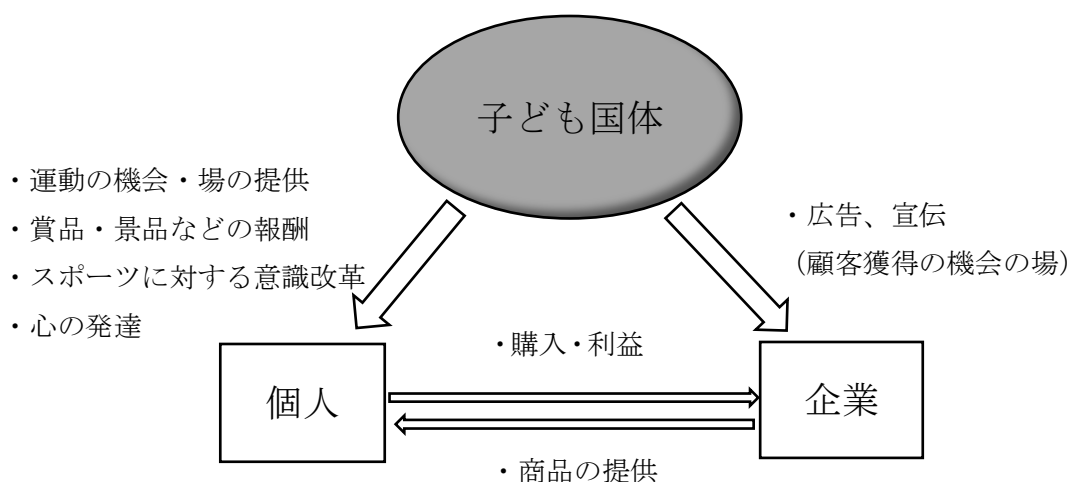
幼児期の体力は、一人一人の幼児の興味や生活経験に応じた遊びの中で、幼児自らが十分に身体を動かす心地よさや楽しさを実感することによってつくられる。そのため幼児教育において、幼児が身体を動かす機会や環境を充実させることが必要である。また子どもたち自らが勝ちたい、負けたくないと思うようになればそれだけ結果に出てくる。つまり競争心を養うことが期待できる。

### (イ)親子でのスポーツ意識改革

子どもがスポーツを始めるきっかけ、スポーツを続けていく動機付けとして、親子でスポーツをすることが有効であり、体力やスポーツの意義をあまり積極的にとらえない親を子どものスポーツの場に導き出し、理解を促す機会となることが期待できる。

(ウ) 企業、社会、個人間での相乗効果

子ども国体に参加する利用者は運動に関わる機会が増える他、賞品、ポイントなどの報酬を得られ、それらを使って買い物をすることができる。また、Yahoo!やGoogleなどの企業は子ども国体に参加することで自社の広告宣伝になると共に、利用者を増やすことができ、経済効果の向上が期待できる。このように、子ども国体を行う目的は、子どもに、「する・見る・支える」この観点から運動にかかわる機会を与え、体力・運動能力の向上を図ることを狙いとしたものであるが、この活動は利用者だけでなく、企業、社会、個人の3つの間でそれぞれがwin-winの関係を作られることが期待できる。



(図1) 子ども国体を与える影響

<参考文献>

- ・文部科学省 (online1) 子どもの体力の現状と将来への影響  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344530.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344530.htm)
- ・文部科学省 (online2) 子どもの体力の低下の原因  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344534.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344534.htm)
- ・文部科学省 (online3) 体力の意義と求められる体力  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344532.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344532.htm)
- ・文部科学省 (online4) 幼児期運動指針について  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319192.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm)
- ・文部科学省 (online5) 子どもの体力向上のための総合的な方策について (答申)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001a.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001a.htm)
- ・笹川スポーツ財団 (2017) 学生のスポーツ活動における保護者の関与・負担感に関する調査研究  
<http://www.ssf.or.jp/research/report/category4/tabid/1333/Default.aspx>